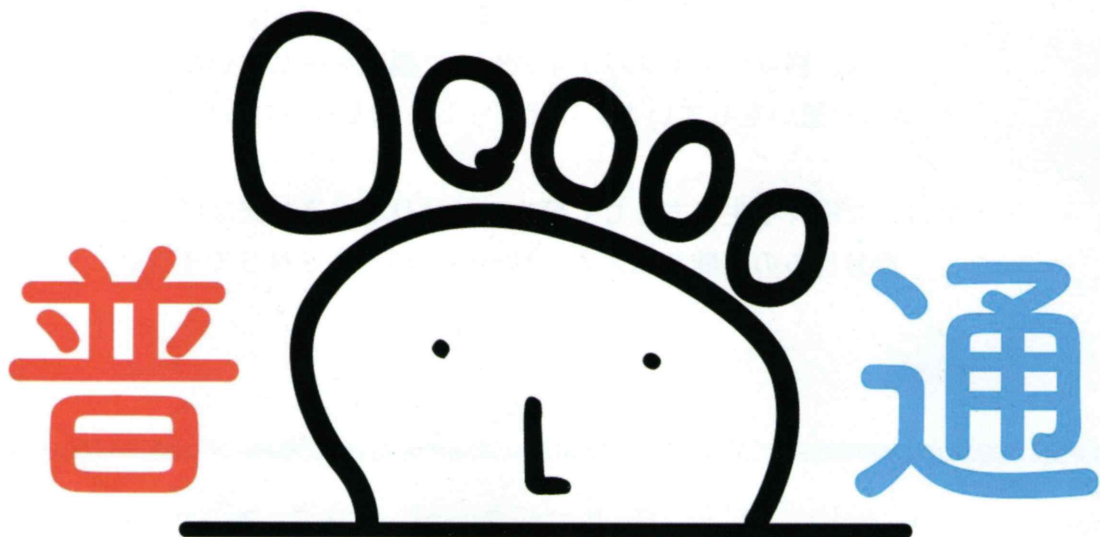


長野で暮すマイノリティを生きる僕らのために、
僕らが作るフリーペーパー

hanpo vol. 02

TAKE
FREE



って何だろう？

topic

- 「普通じゃない」が「普通」になる日
- 夏休み！？どう過ごしてた？
- マジメだっていいじゃない
- 夏休みの終わりに
- ナガノすごもりマップ
- 空想ハピネス図鑑

hanpoは、さまざまないきづらさを経験してナガノで暮らして
複雑な思いをしているあなたに、ナガノに住む半歩先にいる人たちの
声を伝える手紙です。



とは

いま、様々なマイノリティのもとに孤独を感じていたり
つらい思いをしている10代から20代くらいのあなたへ

ナガノで様々な生き方をして暮すマイノリティ※の経験者たちが
自分たちの経験を伝えるフリーペーパー&SNSです。

普通についていうのは、けっこう普通じゃない

しおあじ

突然だけど、あなたは「普通」についてどう思うかな？

「普通」についてよく聞く言葉だけど、「普通にできないの？」

「普通にやってたほうが楽じゃない？」 「普通出来るでしょ」

とか、僕もよく言われた。

なんでできることが「普通」なんだろう、同じことを思うのが

「普通」なんだろう。普通に考えたら、隣にいる人が自分と同じ
ことをできるって考えるのは、ものすごい思い上がりだと思う。

普通に流されることは、思いやりを失うような気もする。

今、僕は十分「普通」にしているよ。学校には行かなかったけど、

今だってあなたから見ればたぶんマイノリティで

普通じゃないのかもしれない。ある人にはもっと頑張れ、とか

別の人には肩の力入れすぎだよとか、言われている。

でも、今僕は精一杯に生きている。

hanpoでいう、マイノリティとは、

不登校や学校の問題、だけではなく、発達障碍、

身体障碍、内部障碍、LGBT、ネグレクト、国籍、etc

これらに当てはまらなくても生活していて感じる様々な人
に伝えにくく理解されにくい生きづらさのことを指す。

「普通じゃない」が「普通」になる日

さらみ

「普通」ってなんだろうって考えたことはある？

お父さんとお母さんのもとに健康で生まれて、

6歳になる春に小学校に行く。

平日毎日通って、決まったクラスメイトと

決まった時間に決まった場所と同じ授業を受ける。

決まった時間に給食を食べて、黙って掃除をして、

「先生皆さんさようなら」と言って

通学路をまっすぐ帰っていく。

これを6年間繰り返し返したら、次は中学校に

行く。中学受験をする人もいるかも。

同じように決まったクラスメイトと決まった時間に

決まった場所で同じ授業を受ける。

部活をやる人はやって、学年があがって

受験をして、高校に入る。仕事に就く人もいる。

高校でも部活をやって、就職したり、受験をして

大学・短大・専門学校に通う。卒業して就職をする。

どこかで出会った素敵な人と結婚をして、

子どもができて、家を建て、車を買う。

働きながら家族を養ったり、子どもを育てたり。

いっぱい働いて偉くなって、

定年になったら退職金をたくさんもらって、国から
もらえる年金で何不自由なく100歳まで生きる。

これを読んで、「え、これって普通なの？」

って思った人はどのぐらいいるかな。

「これができていない人は普通じゃないの？」って

思った人もいるかもしれない。

これを「普通」と思っている人がいる。

こうだったらいいな、っていう憧れを持つ人もいる。

僕は「普通」って道筋なんだと思う。

ただ、あくまで「多くの人たちが目指そうとする道

筋」に過ぎないんだとも思う。縛られる必要は全く

ないんだ。道筋はひとつじゃないんだからね。

でも、周りの人たちは、みんなをなんとか

「普通」にもっていかうとしてくるし、「普通」のほう

がいいでしょ、と思わせようとしてくるんだ。

「普通」こそが幸せ、って信じて疑わない

人たちもたくさんいるからね。

みんなと一緒に、っていうのが何よりも安心するから。

実際「普通」が幸せっていう人もたくさんいる。

人と違う道を進むのって、不安なんだよ。

「普通」から外れるのって不安なんだよ。



ほんだ'なのオキブ'スノ

「そうゆう見方もある？」

普段生活していても、意外な視点や考え方にハッとする瞬間ってあるよね？

うん、あるでしょう、普段の生活では思いもよらない視点を見つけたときに、少しだけ心に余裕が生まれることもあると思うのさ、そうした作品を紹介してもらった。

だからといって、「普通」じゃない道を選んだ人たちを否定する理由にはまったくないんだけどね。僕は知っている。

「普通」じゃない人生を送っている人たちを。

「普通」の道をいかないで幸せになっている人たちを。

それも一人や二人じゃない。たくさん。

その人が特別だからできたことでもないし、その人だからできたことでもある。

「普通」にしないさい、っていう周りの人たちからの

力と戦ってきた人もいれば、

「僕は僕の道を行くよ」って気にせず突き進んでいった人もいる。

た人もいる。

少し前だったら、めっちゃくちゃいろんな人から怒られていたかもしれないけど、

今は前ほど怒られなくなったか感じがする。

「普通」って、変わっていくんだって気付いたんだ。

少し前まであり得ない、常識はずれって

思ってたことが、今それほどあり得なくなっていくってなっていないことに。

ゆっくりすぎて気付かないかもしれない。

けど確実に、変化してきているんだ。

戦わなくても、強くなくても周りが思う

「普通」に乗らなくても生きていかれるように。

僕は「普通」が本当の「普通」になるのを信じてる。

周りが「普通じゃない」っていうることが、そのうち「普通」になるように。

いくつもの選択肢が目に見えるようになって、どの選択をしても受け止めてくれる。

失敗してもまたチャレンジできる。

そんなことが周りの人も自分も思う

「普通」であるように。

さくらみ

東信地区でうごめく変な人。生まれてからの

小腸の病気で、短腸症候群という個性をゲット。

入院、院内学級、いじめ、命の危機など多数経験。

「普通ってなんぞや？」の答えを求めイベント企画中。

中学の時数学2.2点だったのに、

何故か今お金に係わる仕事をしている。



ほんたなのオキゲスリ

まんが

「ヘテロゲニア リンギスティコ」異種族言語学入門

/ 瀬野反人 角川コミックエース

ファンタジーな世界で言葉について考えたことはあるだろうか？様々な動物、生き物たちの言葉は、私たち人間のそれとはまったく異なる、時にそれは音でなく、振動やボディランゲージだったり、え、ちょっと待って、言語じゃないじゃん？とか思うかもしれないけど、本人？達にとってははじめそのもの、自分の思いを伝える方法なのです。私たちの当たり前とはかけ離れた世界かもしれないけれど、そんな隣にいる隣人の普通について考えるきっかけにもなるんじゃないかな？

普通についてあれこれ…

「普通」って、一人ひとりが育ってきたお家とか、友達とか、関わる人とか色々なことを経験してきて、その人の「普通」になるんじゃないかなって思う。だから一人一人少しずつ「普通」の定義が違うのはしょうがないことなんだろうな。

でも、その普通の違いに気が付いていない人がたまにいる。「なんてそういう風に考えるの？」

おかしくない？」とか、。そう言われると自分を全

否定されているような気持ちになって悲しくなる。

私は私でいいはずなのにね。また逆に自分で自分のこ

とを「私は普通じゃなくなっちゃった、みんなと違

う。もうダメかも」よ自分の普通で自分を責めちゃ

うこともある。そう思っている時、正直すごく辛い。

なので私は、「普通」って一人一人違うから、否定し

たり、全部相手の普通に合わせてしまいうんじゃなく

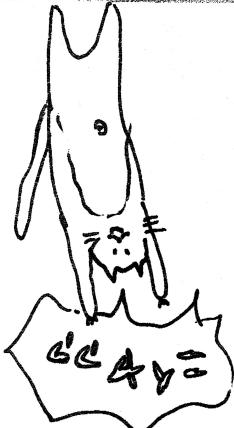
て「ほうほう、ねるほど、そう思っていたのね」「そう

ゆう意見もあるんだな」「自分の普通で自分で作

り上げた幻想なのかしら？」程度に受け止めたりし

ています。調子がいい時しかできないけど。

きよろ



命に比べりゃ「常識」なんて

「普通」と「常識」

「常識」とは、イギリスの「コモンセンス」を訳し損ねた言葉らしい。「コモンセンス」は、隣人に対する思いやりや、感動する心、繊細な感性、人を褒める時に使われるような単語だった。その訳である「常識」は、現在の社会のルール、暗黙の了解、というような窮屈な意味に縮小されてしまった。「常識」なんて気にしなくなっている。それぞれいい。本当に温めて大事にしないといけないのはコモンセンスのほうだと思う。

なおと

普通の生活

普通の生活と言いつつも、

普通って本当に誰のことなのか？とか思ったり

健康なら普通なの？毎日働いていたら普通なの？

毎日学校に行ったら普通？毎日家事したら…

病気やけがをしたら普通じゃない？

仕事や勉強を家でしていたら普通じゃない？

みんなそれなりにできることをやれば

それでいいんじゃないのかな？

本

ほんだなのオキゲスリ 2

「そして生活は続く」

/星野源

歌手や俳優として活躍する星野源さんのエッセイ集。

「つまらない生活を楽しもう」がテーマとなっています。文章がとってもユーモアに溢れていて、親近感がわく文章です。煌びやかイメージの芸能人でも、僕らとなんら変わらない一般人の目線を持っている。そう考えると、身の回りにいる人も、ちょっと話してみればわかり合えるかもしれない。そんな気分にさせてもらえる良書です。読みやすいよ。

もうけど
も
て思う

プール行った→キャンプした
→従兄弟が泊まりに来てた
→遊んだ→宿題が残った...



高校の時は野球でしたね。好きな
ことをやっていたから今から思えば
幸せでした。当時は練習キツくて
辛かったけどー。

宿題を終わらせて。
ヤリ担いで登って降りて
毎日コナン見てた。

いつもは誰もいないお店とかに
人がいて、身の置き所が。。。

の夏こそなんかやるって思って。
なんもなかった。いとふゆ

を満喫した。猫と一緒に風呂場でごろごろ
していた

遊んでるって思われたくなくて、
ずっと図書館で勉強してた

のプールも
ドに自分ちの

キャンプ!
キャンプキャンプキャンプ!
なんかずっとキャンプしてた

弟が楽しそうにしている
自分何もなくて
なんか、もうしわけなくなる

じり倒してた

朝のラジオ体操が苦痛だった...

友達と会えないから、毎日早く
終われって思ってた

夏休みになると、
昼間も学校の人があいてて
むしろ居場所が無かった。

ネットで湧くキッズを狩ってた

高校時代はダイバーライセンスほし
てバイトしてた。今思うとリア充

懐かしの
Radio



夏休み！？ どう過ごしてた？

もう60年も前だけれど、
歩いておばあちゃんの家
遊びに行くの、30キロ
くらいあって、歩くのは
大変だったけどいところが
多かったからそれだけで
楽しかったわ。

お盆に親戚の家に
行くと「最近何やってる？」
って聞かれるのが苦痛

学生だった頃、夏休みにみんなが何してるのか気
になって仕方がなかったの、なんか、自分だけ損し
てたりしてる気分になって。なので老若男女とわず
夏休みに知り合いがどんな過ごし方をしているの
か気になっていろんな人に聞いてみました。とくに
何がどうってこともないんだけど、夏休みに他人が
まぶしく見える現象軽減のためにどうぞ。

宿題！習慣づけなんだとお
もっと自由研究させてくれて
よかったんじゃないかな～

近所の縁日で、好きなコト
知らないやつが手をつないでて、
クソって思った。
夏休み前
古墳に

夏休みとかなんにも思い出なくて、
なさ過ぎて終わってから
学校の人に会うの嫌だった

なにしてたわけじゃないけど自
中間登校日行かなかった。学校
行かなかった。ラジオ体操が
ハンコ押した(笑)。

プールのコインロッカー
100円探してた
朝から晩までパソコン

桃の収穫てつだった
♡♡♡

おどりは より

マジメだっいいいじゃない

るるさん

茹だるような暑さ。

200人の階段教室での授業が終わった。必修で

みんな講義を受けているおかげで席は詰め詰めだ。

慣れない地にもやっと慣れ始め、ぼちぼち親しい

友人ができ、のんびりした大学ライフを楽しんでいた。

そんな時期だった。

ちょうど、夏休み前の最終講義で、課題が出た。

今となつてはどんな課題だったか忘れてしまったが、質問があつたわたしは教授がいる研究棟へ向かったのだつた。他の子にも質問したけれど、

みんな夏休み前のせい、上の空で

「聞いたいて、まあなんとかなるっしょ」

そんな答えが大半だった。

5階にある教授の部屋には本がびっしりと敷き詰められていて、足の踏み場もない。

「あの、さっきの講義受けてて質問があるんですけど、いいですか」

質問する学生はほとんどいないらしく、教授は「珍しい学生もいるんだなあ」そんな表情でコチラを見ている。

ひと通り質問を終えると、ぼつり、と一言。ほとんど無意識だったと思う。

「真面目って、ばかをみますよね。」

世の中、そんなもんですよね。」

そうだった。小学校のときから。帰り道、

いたずらっ子に傘でランドセルでたたかれて泣いている子がいた。

注意しても直さない。翌日先生に言っても

「あの子はいつも優しい子よ、そんなことしないわ」

そんなひとことで片付けられてしまう。

それから、それから、中学校のとき、

走馬灯のようにいろいろなことが頭の中で巡ってきた。

しかも些細で何十年も忘れてたことまで。あんなこと、こんなこととぼんやりと考えていると教授の口からあるヒトコトが出てきた。

「そうですね？真面目にやって損なんてしません。

世の中、見くびらないでください。」

「そう思うなら、ウチのゼミに入ったらどうですか？」

きよとん。

意外なコトバだった。

このコトバがわたしの大きな分岐点になる。

まんが

ほんだなのオキケスリ

「ニコイチ」

/金田一連十郎 スクウェア・エニックス

「うちのお母さんはとても美人です」と言って自分のことをほめてくれる息子は、実の息子ではない、それどころか、自分は母親でもない、どちらかと言えば、お父さんなんだけど。。

ひよんなことから、女装して、男の子を育てることになった主人公が自分が男性であることを息子に隠しながらサラリーマンしたり恋愛したりしている日常の中の非日常を描いてくれる漫画です。

作者の金田一連十郎さんは16歳でデビューしてずっと連載持ち続けている作家さん、でもそのキャラクター達には絵柄には想像つかないほどシリアスに作り込まれていて、作者はどうやって、どんな視点でこのキャラクターを作っているんだろうと不思議になります。

たしかに、そのあとのゼミライフは決して楽なものではなかった。

でも、真面目にやって損をすることは無かった。それに、わたしの「マジメ」にどこか堅苦しさを感じつつも、それを認めてくれる仲間に出会った。先生に出会った。

逆にわたしが「フザケテル」と決めつけてた人たちにも「マジメ」があることを知った。

「真面目って、ばかをみますよね。」

世の中、そんなもんですよね。」

決めつけていたのは「わたし」だったのだ。

「マジメだっていいじゃない、世の中捨てたもんじゃない」

今は、そう思える

るるです。

モットーはのんびり、ゆっくり。

時に葛藤を。

こころを紡ぐ不思議な空間が居心地いい。

そんな空間、おどりばに参加したコトがきっかけ。

これから、ふと考えたコト、思ったコトをおどりば

に綴っていきます。

おどりば

人と人とが想いを共有しあうなかで、

自分を深められるような場

ナガノに生きる様々な人が日頃考えている

思いを、誰かがコトバを紡いでくれています。

今回はその中から記事をお借りしました。



おどりば

ODORI-BA

Twitter : doribanobokura

HP : <http://odori-ba.net/>

28人のメンバーがさながらアパートのように毎日かわるがわるの記事をかいてくれています。様々な価値感を持った人が、ナガノで思うこと、そうした、様々な思いに触れていただきました。おどりばから一部抜粋させていただきました。

映画

ほんたごのオキダスリ 4

「スパイダーバース」

原作「スパイダーマン」著者スタン・リー/スティーブ・ディッコ

「ニューヨーク、ブルックリン、マイケルモラレスは頭脳明晰で、名門私立高校に通う」誰もが憧れる新生活、だけど、彼は地元の仲間たちの居る高校に通いたかった、大好きなおじさんとストリートアートをやっていたかった。両親と暮らしていたかった。それが彼の日常で普通だったから。

そんなときに彼は放射性的のクモにかまれて「大いなる力」を手に入れてしまう。

「大いなる力には大いなる責任がともなう」でもそんなことはどうだっていい、僕の普通を返してよ。

こんなのは他の誰にも分かりっこないんだ。そう考えていた彼の前にも分かり合える友人と出会う。

と、思って観ると、ものすごく背中を押してくれる最高の映画。

夏の終りに あなたへ

苦しい思いをして辛い場所に留まって

命を傷つけるくらいなら逃げていい

嵐の中に立ち尽くして

傷つくくらいなら嵐が過ぎ去るのを待っていていい

信じていた友人を信じられなくなったり

友人が傷つくのを見ていられなかったり

家族に信じてもらえなかったり

家族を苦しめてしまったら

そう思ってしまった自分を許せなかった

自分を許せなくて傷つけて

消えてしまいたくなる

そうして

自分の思いを理解してもらえないことは、

この先もあるかもしれない、いいや

これからもきつとあると思う。

でも、そうしたときに、自分の今いる場所から

少しだけ下がって、遠く視野を広くしてみてもいい

今あなたが見ている世界は、世界の全てではない

今あなたの周りにいる人が世界の全てではない

世界から置いてきばりに思ってる

世界を拒絶してしまっても

苦しい思いをして辛い場所に留まって

命を傷つけるくらいなら逃げていい

今の場所が合わなくても

僕らがこうして生きていられるように、

あなたにも必ず場所が見つかる

僕らは信じている。



次回予告と編集後記ッ！！！！

次って11月くらい？

8月ですね、夏の終り頃と言っていましたが、夏休みの終りに出すことになりました。

Vol.1を出してから本当に多くの方から反響をいただき、ものすごくうれしくも、忙しくしております、やりがいがあるって幸せですねえ、メンバーにはヤリガイサクシュ？怖いですね。今回はなんか文章多めで面白みに欠けるかしら。次回のテーマはまだ未定です。

たぶん次は、ジングルベルとか冬のボーナスとかが聞こえる頃とかになるとおもいますえ？ところでボーナスって実在するの？

「もうすぐ夏も終わるね」
「そうだね。もうすぐ子どももできる」
「種が少しずつできてくるもんね」
「今年は君の隣でたくさん話ができて楽しかったよ」
「僕だって楽しかった」
「子どもたちも同じ気持ちをもってくれるといいな・・・」
「どうしたの？」
「ううん、なんでもない」
「ふーん・・・。ねえ、僕らが立っているところって僕らの種が植わったところなんだよね」
「うん、そうだよ。そんな当然なこと」
「なんか、幸せだなんて。偶然ここに植えられて、君の横にすることができた。不思議だけど」
「そうだね、考えてみれば不思議」
「僕たちはさ、置かれたところでしか咲けない。だけど、精いっぱい楽しんで夏を過ごした。秋になって寂しい気持ちはあるけど、秋は秋で楽しいよ。きつと」
「・・・うん、そうだね。きつと楽しいよね」
「そろそろ日も落ちてきた」
「今夜は涼しいといいな」
「涼しいよ。きつと」
「うん、そうかもしれないね」
「じゃあ」
「おやすみ」

写真 Saki

「hanpo」のその他の情報や記事の続き、詳しいイベント情報は
⇒のQRコードの先

「hanpo」note版に記載されています。挿絵イラストとか
記事を書いてくれる方を募集中興味のある方は連絡ください。
また、ご意見ご感想あと寄付とかカンパとかお待ちしております。



—ご寄付のお願い—

これからもより多く、半歩先の声を届けるために寄付をお願いします。

<寄付振込先> ゆうちょ銀行 <振込先口座名> hanpo ハンポ

<店名> 059店 <当座> <口座記号番号> 00510-5-0053632

-お問い合わせ連絡先-

hanpo 編集部 ⇒⇒⇒ Email hanpoedit@gmail.com

◇Twitter [@hanposakino](https://twitter.com/hanposakino)

◇Facebook [hanpo](https://www.facebook.com/hanpo)

◇note [hanpo](https://note.com/hanpo)

